

三橋地域審議会

第 2 回会議録

開催日時	平成 2 1 年 1 月 1 4 日（水）10:00～11:30	
開催場所	三橋庁舎 3 階 第 2， 3 会議室	
会 議 内 容	次 第	会議結果
	1 開 会	会 長 中村国保 副会長 目野博子
	2 副市長あいさつ	
	3 新委員の紹介	
	4 会長あいさつ	
	5 協 議	
	（1）合併協定項目の進捗状況	
	（2）答申の進捗状況	
	（3）新市建設計画の執行状況	
容	（4）その他	
	6 閉 会	

三橋地域審議会委員出欠名簿（15人中11人出席）

出席者：中村國保、目野博子、江口文博、高橋登喜男、竹井澄子、近浦フジ子
中野芳樹、平田福実、藤生桂子、藤丸伊津子、三浦 榮一

欠席者：井上真也、大橋敏則、中山儀一郎、森田辰夫

会議録の確定		
確定年月日	平成 2 1 年 月 日	
署 名	議長	

午前 10 時 00 分 開会

1 開会

□事務局（企画課長）

皆さんおはようございます。本日は、委員の皆様には、大変お忙しい中にご出席いただきありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから三橋地域審議会を始めさせていただきます。

この地域審議会は、平成 17 年 3 月の 1 市 2 町の合併に際しまして、10 年間の期限で、旧 1 市 2 町それぞれに設置されたものでございます。平成 18 年 6 月にはそれぞれの地域的課題を答申いただき、現在はその対応や合併協定項目の進捗状況などについてご審議いただいているところでございます。本日は、大泉副市長が出席しておりますので、一言ごあいさつ申し上げます。

2 副市長あいさつ

□大泉副市長

皆さんおはようございます。今日は三橋地域審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様のおかげをもちまして、新市が発足してから 4 年目を迎えております。いろいろと皆様にもご不満やご苦勞をお掛けしている点があるかとは思いますが、この地域審議会は、新市の施策全般に渡って、住民の意見を反映させるということで設けられております。これまで、地域審議会では、新市の建設計画などについての検討や執行状況についての意見などをいただいておりますけれども、今日の審議会も、こういったものについて、市長に意見を述べるというようなことを目的に開催したいと考えているところでございますので、どうかよろしくお願いいたします。簡単ではございますけれど、私のほうからのあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

3 新委員の紹介

□事務局（企画課長）

なお、前回の審議会以降、推薦団体の役員の変更などによりまして、今回から新たに委員として、PTA 連合会の井上真也さま、農事組合長会の中山儀一郎さまが就任されておりますけれども、本日はお二人とも欠席のご連絡をいただいております。

それでは、会長には、ごあいさつのあと、議事を進めていただきますようお願いいたします。

4 会長あいさつ

□中村会長

改めまして、皆様、おめでとうございます。

朝は寒さも厳しかったですが、なんとなく少しずつ暖かくなっているような感じでご

ございます。柳川市政も、こんな感じで、あたたかいように進んでいただければと思っております。

前は平成 20 年の 2 月に開催ということで、もう約 1 年近くたっておりますので、記憶も定かではないかと思いますが、今、事務局からありましたように、合併協定項目の進捗状況とか、私たちが答申しました事項についての進捗状況、その他諸々のご意見、忌憚のないご意見を出していただき、この審議会が実りあるものになるように、皆様方の審議、よろしくをお願いします。簡単ではございますが、ごあいさついたします。

5 協議

□中村会長

それでは議事に入らせていただきます。まず、1 番の合併協定項目の進捗状況について事務局の説明をお願いします。

【合併協定項目の進捗状況について事務局説明】

□中村会長

合併協定項目の進捗状況について説明がございました。これに関しましてご質問、ご意見などありましたらどうぞお出してください。

私からよろしいでしょうか。先ほどの説明は、前回の報告とほぼ同等のような気もいたしますが、前回と比べて進捗した部分というのはございますでしょうか。特に公民館の関係は、前回の説明とほぼ同じではないかと思ったんですが。

□事務局（企画課長）

前回の合併協定項目の進捗状況の説明の中では、公民館のところは具体的に整備計画などについては説明しておりませんで、検討中という回答でした。また、公民館についてはこのあとの答申の対応状況のところでふれますので。

□中村会長

後で出てくるわけですね。分かりました。

他にないようでしたら、私たちが答申した内容の対応状況に移りたいと思います。それでは事務局説明をお願いします。

【答申の対応状況について事務局説明】

□中村会長

答申に対する進捗状況の説明がございました。皆様方のご意見、ご質問をどうぞお出ください。

□江口委員

22 p の対応状況の中で、平成 20 年 5 月に庁内委員会を設置し、コミュニティセンター整備基本計画の素案を作成中とありますが、この素案の内容を説明できますか。

□事務局（生涯学習課長）

これについては、まだ市長の決裁を受けておりませんので、決裁後に外部の委員会に提示をして、内容をまとめていただく予定ですので、今のところは素案ということでご了承いただきたいと思います。

□江口委員

素案の内容は、前向きにいつているのか、いつていないのか、どっちですか。三橋地域審議会が一番大きな問題はこの公民館の問題。資料のとおり素案ができていのであれば、説明できるのではないか。

□事務局（副市長）

まだ案の段階ですが、社会学系統の学識経験者とか、区長さんなどの地区の代表者を入れて、第三者委員会を設置したいと考えています。その第三者委員会の中で検討するものが、基本計画です。この基本計画の中で何を議論するのかというと、現状では、旧柳川には校区公民館があり、旧三橋、大和には中央公民館があるけれども校区公民館はない。これを市全体の公民館の考え方としてまとめる必要がある。その上で、校区公民館の役割をはっきりさせて、どういうふうに利用するのかを第三者委員会の中で決めていきたい。その決めたものに基づいて、ガイドラインを設け、そのガイドラインに沿ったところで、準備ができていところから、コミュニティセンターの整備を進めていきたい、というのが大きな流れです。今検討している庁内の基本方針の考え方は、市全体の施設がどうなっているのかということ把握して、それぞれの地区で異なっている校区公民館の位置づけを整理するのがひとつ。それから用地手当の問題。これについては、地元で候補地を選定し、交渉までしていただけないものかと考えています。それから、整備の優先順位です。これはガイドラインに採択の基準などを設け、適正規模かどうかなどを見極めて予算の範囲内で整備していくことになります。それから施設の役割についてです。コミュニティセンターには、避難所としての役割もありますし、市民の地域活動を推進する役割もございます。どういうふうな機能と役割があるのかを整理して、基本方針の中に入れたいと考えています。また、施設の維持管理についても、誰がどのように面倒見ていくのかを決めておく必要があります。すでに建設済みの旧柳川の公民館については、例えば窓拭きや周辺の草取りまで市でやってくれということもあります。それぞれの地域でやっていただくものと市でやるものを仕分けしておかないといけないと思っています。これら諸々の内容を第三者委員会の中で協議しながらガイドラインとしてまとめていきたいと考えているところでございます。

□江口委員

今、副市長から説明がありましたが、三橋町としては、18億3千万円を合併時に持っていたときの条件として、校区コミュニティセンターの整備に充ててほしいという要望をしている。今の説明によると、今後の第三者委員会の協議を待って、具体的な計画は22年度ごろまで出てこないということになる。少しでも早く、三橋地域審議会の皆さんにも分かるような説明を是非してほしい。

□事務局（副市長）

皆さんの気持ちは何度もお伺いしておりますので、重々承知いたしております。議会にお

いても中山地区と藤吉校区については、請願が上がってきています。早くしてほしいという皆さんのお気持ちは承知しておりますが、他の地区の皆さんにもこういうふうにして決めていますということを明らかにしながら対応していく必要がありますので、ご理解いただきたいと思います。

□江口委員

1 日でも早くわかるようにしてください。

それから、26、27 p に直売所の設置とありますが、この件ではこの前新聞紙上では議会で否決うんぬんとありましたけれども、対応状況をみますと、スケジュール的に非常に勉強されているようで、実際はどのような状況になっているのか。

□事務局（副市長）

柳川に着任しましてから、地域の産業振興を何とかしなければならないという問題意識を持っていたところでございます。これを何とかするためには、人・モノの流れを新たに考えていく必要があるだろうと。ひとつ注目していますのは、加工品の開発です。規格外品でも加工すれば商売になるわけです。そういうチャンスを新しく作っていく必要がある。それを基に産業活性化を進めていく。その場合に「道の駅」をひとつの起爆剤、手段として使えないだろうかという構想でございます。この道の駅を作る場合に、それを認定するのは国土交通省の道路部局でございます。例えば最寄の道の駅との距離、それから当然ある程度交通量のある道路に面している必要があります。そうした条件からして、443 号線バイパス沿いはひとつの候補地でございます。この三橋地域審議会の中で直売所の設置というのが強力に出てきていますので、何とか直売所を道の駅の一部として、車で道路を利用する人たちの休憩所機能を生かしてやれないものかと思っております。職員には九州各地の主だったところの道の駅を見てきてもらっています。うまくいっているところ、うまくいっていないところ、様々あるわけです。土地をどこにというのは、明らかにしておりませんが、443 号バイパスの北側で何かできないものかと考えております。私どもとしては補正予算で不動産鑑定費用を要求しておりまして、地元で協力いただけるということになれば、不動産鑑定調査をやって、大体 2 ヘクタール程度を予定していますが、具体的な地区設定ができると考えていたところですが、議会のほうからは唐突だと。私どもは決して唐突だとは考えておりませんで、4 月に活性化推進室を作ったときから道の駅を検討していますということは申し上げてきたわけで、また、道の駅にはどんなことをということは、農業や水産、それから商工とすべての産業の活性化を目指して、さらにはモノを売るだけではなく情報を売って、人とモノの交流を活発にすることによって、柳川全体の物流の改善をしていこう、という狙いで提案したわけですが、唐突だとか、場所はもう決まっているのではないかと、建設スケジュールだとか、費用対効果だとか、ずいぶん宿題をもらいまして、話が進まないという状況になっております。実は、土地の手当でも含めて全部で 8 億くらいの事業費を踏んでいますけれども、これについては、農林水産省の農業振興の補助金、国土交通省の道の駅に関する補助金、さらに経済産業省の物流関係のものなど補助事業をかみ合わせて、できるだけ市の負担を抑えてやろうという計画で考えておりました。ところが、先ほど申しましたように、いろいろな注文がつかまして、補正予算が認められなかったというわけです。でも、補正予

算の成立は見送られましたけれども、当初予算からの検討費用はありますので、市民の皆さんや関係団体の意見も入れながら、もう一度ビジョンのところから市民の皆さんの理解を深めていただいて、進めていきたいと思っております。ぜひ作りたいと思っております。これをしないと、今の金融危機といわれている中で、地方の活性化を図れないのではないかなというようにも考えておりますので、どうかご理解いただきたいと思います。併せて、ご協力もいただきたいとおもっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

□江口委員

ぜひお願いします。特に 443 号バイパスは、将来的には九州縦貫道に接続しますし、柳川に来られる方の利用が多くなると思います。道路の北側というお話がありましたが、柳川を観光して、帰るときにお金を落としていただくというのが一番じゃないかと思いますので、ぜひ強力に、議会にも理解していただくように、地元からはいつでも応援にいきますので、よろしくお願いします。

□事務局（副市長）

力強い応援のお言葉をいただきましたので、がんばっていききたいと思います。ありがとうございます。

□中村会長

今の件に関しましては、対議会折衝を上手に進めてもらいたい。いきなり決まったようなことをポンと出されると議員さんはカチンとこられて、いろいろなことを言われるから。根回しといっっては何ですが、反対が出ないように進めてもらいたい。よろしくお願いします。

□事務局（副市長）

ついでで申し訳ないのですが、ここで皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと思っております。今回の件は、確かに唐突といわれれば唐突な部分はあったかもしれません。ただ、公共事業の場合、場所を特定してしまうといろんな憶測が飛ぶ。さらに用地買収の単価が上がってしまう。そういう問題があるわけです。今回、場所を特定しないで、あの辺ということで地元の協力体制を探ろうとしていたわけですが、議会中にある議員から事前に話してくればよかったという話もありました。どういう形が、市民の皆さんの理解が得られるのか、非常に悩んでいるところです。皆さんからこげんしたどうかというご意見がありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

□平田委員

先日テレビで、中島の朝市が紹介されていたが、あそこの商いの始まりは物々交換だったということでした。今ある産直のほとんどは、最初は 100 円コーナーのようなところから始まっている。だから、私たちの町でも、生産者が直接販売するような形から出発していけばいいんじゃないかと思います。最初から立派なハコモノを作ってお客さんを呼ぶということではなく、住民の人たちの食べるものを 100 円コーナーみたいな感じで販売して、それが自然と大きくなっていくというほうがいいんじゃないか。

先ほど、大豆の乾燥施設の要望がありましたけれども、そういうものを作ってやらないといかんと思います。基幹産業は農業ですから、商品の在庫管理をしていくためには、そういうものが要なんです。生産者だけで負担するのではなく、行政として基幹産業を生かして

いくという発想がないと、限界があるような気がします。今は不景気で仕事もないわけだから、地元で仕事を作っていくという意味でも、そういうふうにしていくべきだろうと思います。

□中村会長

今のご発言は、実際の販売についてのご発言だったと思いますが、副市長さんがご意見とおっしゃったのは、場所の選定とかに関して何かお知恵がございましたら、ということだったと思います。他にございませんでしょうか。

□竹井委員

この道の駅はぜひ作っていただきたいと思います。私の体験から言いますと、柳川は観光だけでなく農業のまちだとPRするためにもと思って、バスを1台来ていただいて、とうもろこしを1本70円、枝豆1本50円で取っていいですよとやったら、バスの運転手さんがこれ以上乗りきらんですよというほど持っていかれた。福岡市のほうの人ですけど、楽しかった、毎年しましょうよ、と言われて、枝豆を40本も50本も買っていかれた。そういうふうに体験できる、そしてまた道の駅でも買える、というふうにプラスアルファをいろいろと考えていただいて、よそにない道の駅を。農家の人もじっとしていても枝豆が売れていったから、農協に売るよりよかったと言われて、あんなことで、都会の人は喜ばれるんだと。

□事務局（副市長）

委員の皆さんからいただいた意見も、活性化推進室の中で検討を進めています。私が着任してから感じていたことは「まわる」ということ。観光業、農業、水産業、商業、工業それぞれありますけれども、まわっていない印象がある。観光なら観光だけで、これだけ儲けて終わり、という感じなんです。ところが元気のいい市町村はそうじゃないんです。観光があれば、それが農業、水産業や商業との結びつきがあったりする。訪れてくる人の価値観は多様化していますから、あれもできるこれもできるというところに喜びなり、もう一度きてみたいという気持ちをもっていることは事実なんです。それともうひとつは、道の駅を作って終わり、というのではなくて、3年経ったら道の駅だって陳腐化する可能性があるんです。そうすると売り方だとかやり方を、3年経ったら変えないと、なかなかもたないということも事実なんです。ですから、最初から100点を取るわけではありませんが、少なくとも地域全体に与える産業のインパクトをまずつくりたい。そのために道の駅というわけですが、その場所の手当てがなかなかうまくいかないんで、皆さんからお知恵をとということなんです。

□中野委員

道の駅に関しては、相当の覚悟と根回しが必要でしょうし、今度の調査費の否決で、実現が相当遠のいたんじゃないかと感じます。というのは、道の駅は路線に1箇所ということで、443号バイパスでは瀬高との勝負になります。今から、相当な覚悟で議会の同意を得られるかたちで進めていかないと、今回の否決でちょっと後退したんじゃないかなと感じます。でも場所としては、有明海沿岸道路の関係で、やはり柳川市に作るほうがベターだと思います。ということは、その推進を強力に継続して進めていくべきだろうと思います。

□中村会長

私からちょっと提案ですが、産業活性化推進室でいろいろと検討されているということで

すが、そのメンバーは市役所の職員だけでしょう。その会合にオブザーバーとして地域から交代で、商業、農業、漁業などの関係者を呼ばれて、いろいろな意見を吸い上げていかれるような方法をとったらどうでしょうか。

□事務局（副市長）

貴重な意見をいただきましたので、早速そういうかたちでやってみたいと思います。それで、今年度も3月までですが、大分県の大山の道の駅の駅長を招いて、話を聞く予定としています。それから、自分は道の駅に参加したいんだというときに、出資して、売り上げに応じてキックバックというか、市民生協のような考え方ですけれども、そういう仕組みも考えております。少し後退しておりますけれども、市議会では、決して否定はしませんと言われております。本音は分かりませんが。

□中野委員

スピードが必要ですよ。瀬高からとられますよ。

□三浦委員

道の駅は、地域の活性化のために必要だろうとは理解しています。今、JAでは蒲池、大和、Aコープの中と3箇所直売所を持っていますが、立地する場所とかやり方によって大きく差がつくんです。1箇所大和だけが厳しいです。ある程度、採算は取っていかんとできないものですから、大和は3月いっぱい閉店します。そういうことで、やる気のある人を世話役に持ってくるとか、そういうところを十分に考えて、前向きに取り組んでもらいたいと思います。

□平田委員

道の駅に限定しなくても、商品が売ればいいんだから、そこが活性化につながっていくと思うんですよ。直売所という考え方でもいいと思うんですが。

□事務局（副市長）

どのへんで満足するかですけどね。例えば、道の駅で得られる交通制限の情報なんかは、ドライバーにとっては貴重な情報なんですよ。それが道の駅の基本的な役割なわけです。それから、うまく道の駅を使っているところは、そこを交流の場所になっているんです。大分の国東半島なんかのうまくいっている道の駅を見ますと、面的な広がりを見せるんです。そこで観光情報なんかを流して、2月にはさげもん祭りがあるのか、また来ようと、そういう情報発信もしないと、さっき言ったような産業全体の活性化に結びつかない可能性もある。直売だけだったら、駐車場と売店があればいいだろうと思いますが、もうひとつ、本市の場合は、農業や水産業の構造を考えていくと、農業が基幹で、水産で海苔がこれだけ採れるのに、なんで海苔と米を使ったものが出てこないんだろうという不思議な気持ちを持っているんです。活性化推進室をつくる前から、新幹線の船小屋駅が開通しますので、駅弁として柳川産100%の四季の弁当を開発して、1日20食なら20食限定でもいいんじゃないかと。消費者は地のもの100%に弱い部分がある。それから、こういう場所で採れた農産物で、こういう人たちが一生懸命調理した、というものが付加価値が高くなるわけです。そういう、いろんなかたちでいろんな人が関わりを持てるようなものを考えていかないといけないと思っています。平田さんがおっしゃったように、段階的に拡大していくという手もあるわけです。

けれども、道の駅として認定をもらって、交通情報を発信するためには、全体計画での認可をいただかないといけない。道の駅に認定されると、全国の道の駅ガイドブックに載りまして、どこにあって、何があって、営業時間が何時までとかいった情報が1冊になって出てくるというメリットがある。そんなことの使い方も考えながら、また計画を練り直してみたいと思っています。意見などありましたら、遠慮なくいってください。

□平田委員

今は高速道路もありますし、こういう小さなところは通過点なんですよ。小さいところは小さいなりに、地産地消で地元で販売していくという以外にないと思うんですよ。確かに、ほかのところから集めてくるというやり方もあるけれども、まずはそこで採れたものは地元で売っていくと、それをほかのところにも発信して広げていくと。最初からお金だけかけてやっても限界があると思います。そうした企画をして、柳川市をどう経営していくか、市民の生活をどうしていくかを考えるのが市の職員さんなんだから、そこをそれぞれ職員さんが立案できるような体制を作っていくかといかんと思います。

□事務局（副市長）

おっしゃるとおりの部分ございますので、活かさせていただきます。

□藤生委員

17pの水路の(1)に関連することで、旧柳川市の区域のことですけれど、質問よろしいでしょうか。

□中村会長

おっしゃってください。

□藤生委員

西鉄ストアの裏の川下りの水門くぐっていくところの石垣の改修についてですけれど。

□事務局（副市長）

今県が工事をやっているところでしょうか。

□藤生委員

工事を見ていましたら、パネルの石垣を使っていました。あれは、水質も悪くするでしょうが、魚の成育には不適合だと思います。今後もああいうものを使って補修なさる計画なのか、その考えをお聞きしたいなと思います。

□事務局（副市長）

直接見てはいませんが、今のお話で想像はつきます。確かに水生生物に配慮したかたちではないなと感じます。一番水生生物に配慮している石積みは、隙間のあるやつですね。こういう声があったよ、ということは県にもお伝えしたいと思います。県管理ではない市の管理のところでは、地元の皆さんがご了解いただくことが大前提ですけれども、例えばコンクリートのブロックでも、ホタルが生息できるようなホタルブロックというもののものもありますので、やり方を工夫することはできると思います。

□藤生委員

特にあそこは、川下りの舟が通るところで、昔ながらの石積みに修復できないにしても、それに近いかたちで、パネルのような補修はしていただきたいなと思います。

□事務局（副市長）

関連してお答えしますと、市では、掘割に関する条例をつくっております。国や県に、改めて市長名で、こういう環境に配慮した条例をつくっているのを協力してほしいという文書を1月に出していますので、さらに強く要求してみたいと思っています。

□藤生委員

ついでながらカワニナについて言いますと、水門をくぐってすぐのところには、カワニナが少し生息しているんです。水質が前よりはよくなっているんだなとは思っていました。せっかくカワニナも棲みついていますから、余計そういうことを思ったんです。よろしくお願いします。

□事務局（副市長）

カワニナの生息について言いますと、木陰がないといけないし、適度に落ち葉が落ちて、それを食べて大きくなるんですね。市全体でも、そうした空間づくりをやっていきたくて考えていますので、よろしくお願いします。ただ、そういう空間づくりをやるときに時間がかかるのは、地区の皆さんにはご了解いただかないといけない部分が悩みでございます。例えば、落ち葉が出るとそれを誰が清掃するのかということですね。そういった部分については当然、整備する前から考えておかなければいけないことだと思っています。ご協力いただきたいと思います。

□中村会長

ほとんどが産業活性化のことが主でしたけれども、答申の対応状況についてのご質問は、ほかに何かございませんか。

ないようでございますので、3番の新市建設計画の執行状況について、事務局お願いします。

【新市建設計画の執行状況について事務局説明】

□中村会長

新市建設計画の執行状況についてのご質問ございませんか。

□竹井委員

地域特性を生かした活力ある産業づくりの中に漁港建設事業というのがありますが、大和町に漁業団地を作られています、この中に入っているかどうかというのが1点。それから魅力と個性ある教育・文化づくりの中に市民温水プール改修事業1億6,190万円とありますが、改修のときの市長の説明よりかなり高額になっていますが、どうしてこういうことになったのかということと、現在の収支はどうなっているかという2点をお尋ねします。

□事務局（副市長）

この19億227万円の中に漁業団地の整備費は含まれておりますけれども、その内訳は資料を持ってきていないので特定できませんが、これは漁業団地だけではありません。

□竹井委員

それは分かるんです。漁業団地はかなり高額な事業だと聞いているので、それがいくらな

のかを知りたい。

□事務局（副市長）

全体の事業費が、50 億程度じゃなかったかと思いますが、それに対して、市の出し分が 9 億か 10 億ぐらいだったと思います。

□事務局（生涯学習課長）

温水プールに関しては、手元に資料がございませんので。

□竹井委員

赤字と聞いたけれども、採算ベースがどうなっているのか。

□中村会長

あれはもう継続している事業だから、ここには載ってない。

□竹井委員

それでは結構です。

□中村会長

ほかにございませんか。

□目野副会長

最後になっているようですから、重なる部分もあるかと思いますが、先ほども言わせていただきます。この地域審議会の最大の願いは、校区公民館の設立ということで、終始がんばってきたと思うんですが、先ほどから市の答弁を聞いておりますと、旧柳川市、大和町のどこもが納得するようにして公民館を整備する、という結論だったように思いますが、そんなこと言っていたら、いつになるか分かりません。三橋町が持っていったお金で一番先に造ってくださいということは、合併協議会のときからずっとお願いしてきているんです。それをもってきてもう 4 年が経とうとしているのに、まだ何の進捗もない。実際、三橋公民館でアスベストが使われていたということで、2、3 月に改修工事をやるというので大騒動しています。2 ヶ月も私たちのコミュニティセンターが閉ざされて使用ができなくなるということは、旧三橋町町民にとっては、文化の大ダメージなんです。工事は大体延びますから 3 ヶ月くらいかかるとすると、1 年の 4 分の 1 は町民は文化はやめろ、勉強はするなといって抑えられているのと変わらないと思うんです。ぜひ校区公民館を造っていただきたいと、これはもう 1 日も早くお願いしなきゃいけない。旧柳川市の校区公民館が納得するようにと、維持管理費から人件費から市におんぶにだっこされてきた体制のところを、どうやって納得させるんですか。不可能なことですよ。そういった市の答弁では、私たちは納得できないと思います。もっと地域性に合った、地域が持ってきたお金ですから、地域性に合った一番の要望から取り上げていただくのが、この地域審議会に対する市の対応じゃないかということ、を切実に要望しまして、私の意見とさせていただきます。

□中村会長

おっしゃったとおり、三橋町民の素朴な願い。分かりやすく言えば、合併のときに持っていった何億かのお金は校区公民館を造るために使ってほしいと、よその人がどう言う必要はないじゃないのという皆さんの素朴な考えが基本にあるんですよ。そして、柳川の公民館ではランニングコストが掛かっているでしょう。主事を派遣して給料出すとか、三橋の

者はそんなことは考えていませんよ。

□事務局（副市長）

誤解されてる部分があると思うんですが、全員が納得するようにじゃなくて、みんなに分かって、ひとつのルールの中でやっていくというものをつくらないと、また混乱するということです。新市合併のときに協定をつくりながら、ここはこういうふうにしていこうと新しいルールを設定したかと思います。それが、旧三橋ではこうだ、旧柳川ではこうだといつまでも平行線では、また維持管理の問題が出てくるかもしれない。そこにひとつのルールをつくって、そのルールの中で運用するようにしていきたいと思っております。皆さんの急いでほしいという気持ちは重々承知しております。まずはガイドラインを作成させていただいて、それに基づいた運用をさせていただきたいと思っております。後で管理費が、あれもこれも市で面倒見てくれ、ということでは、市政運営できませんので、そこも分かっていただきたいと思っております。第三者委員会を立ち上げましたら、市民の皆さんにも何人か代表に出ていただくようなことも考えておりますので、その時点になったら、検討はスムーズになされていくんじゃないかと思っております。

□中村会長

第三者委員会の速やかな設置をお願いしておきます。

□事務局（生涯学習課長）

先ほど、三橋公民館のアスベストの件について出ましたけれども、アスベストの基準が厳しくなった関係で、おっしゃられたとおり工事を予定しており、現在設計をお願いしているところです。私どもとしては、年度利用実績を考慮して、例えば、総会とかの多い4、5月を外して、できるだけ行事が少ない時期を見計らって工事を実施したいと考えています。アスベストの飛散はなく、人体への影響もないということでございますので、工事の直前までは使用できますので、ご了解いただきたいと思います。

□中村会長

ほかにございませんか。

次はその他となっておりますが、全体的にご意見など何かありましたら。

ご意見もないようでございますので、これで終わりたいと思います。皆様におかれましては、活発なご意見、貴重なご意見をお出しいただき、有意義な審議が進められたことと思います。今後ともご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。これを持ちまして三橋地域審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前 11 時 30 分 閉会